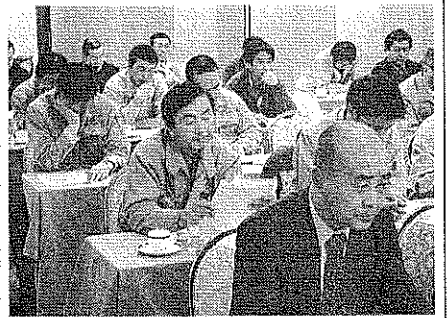


現場の問題点で意見交換 釧路土現事業課と建設業者



【釧路】釧路土現事業課管内の建設業者と同課職員が現場の問題点を話し合う意見交換会が25日、釧路キヤッスルホテルで開かれた。現場代理人クラスを中心に約70人が参加。業界からは設計変更の迅速化などを求める声が上がった。同土現と釧路建設業協会が連携して立ち上げた建

現場代理人と事業課の担当官が積極的に意見交換した

設計業経営効率化協議会での議論を踏まえ、釧路土現事業課安全協議会が主催した。

最初に、本田秀樹同協議会副会長があいさつし、「1件の工事が会社の経営を左右する状況。さまざまな意

見を出してほしい」と意見交換会の重要性を強調。野田功事業課長は「意見交換会を通し、より良い関係を構築することができれば」と成果を期待した。

この後、業者側の質問事項に対し、加藤隆章主任技師が中心となって答えた。

特に設計変更の迅速化をめぐっては、業界から「主任監督員、総括監督員と話し合う機会を設けてほしい」「監督員によっては設計変更を抱え込んでしまう人が多い」といった意見が寄せられた。

これに対し、加藤主任技師は「いつでも事業課に来てほしい。協議をする場を積極的に設けたい」「主任監督員、統括監督員に設計変更の話をしてほしい」と応対、事業課が独自で行っている施工協議簿の提出箱活用も呼び掛けた。

疑問点の解消や提案を協議する貴重な機会となった意見交換会

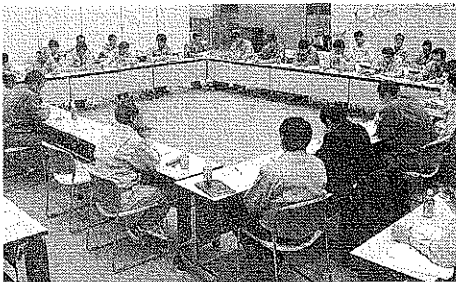
狙い。道が取り組む建設業経営効率化策に盛り込まれており、すでに大樹出張所でも実施されている。

話し合いは頭負業者の提案を基に、土現側が対応策を示す形で進んだ。

「施工開始が現場精査、変更数量報告後となるため、時間的ロスや施工条件の悪化が生じ、工期も厳しい状況」という業者の意見

に対し、土現は「設計変更の期間短縮は必要と考えており、気象条件などによる大幅な工期の遅れについては契約変更で対応していく。ただ、契約後の工期変

設計変更などで意見交わす 帯広土現浦幌出張所管内 工事監督員と現場代理人ら



【帯広】帯広土現は25日、浦幌町のコスミックホールで同土現浦幌出張所管内の工事監督員と現場代理人の意見交換会を開き、設計変更や工期設定、成績評定の

算定方法などをめぐって協議した。意見交換会は、発注者と請負業者間で情報の共有や意思の疎通を図り、効率的な事業の推進を目指すのが

更には相当な理由が必要のため、工事情報や設計書の閲覧時に質問書を出していたければ」と回答。

「工事成績の項目のうち、高度技術については特殊工法が伴う現場でなければ上がりにくいのでは」との質問

には「例えば（一般土木に比べ）舗装などでは高度技術が求められるケースはまれ。しかし、土木、舗装

といった分野ごとに区別して評価しており、ランクにも影響はない」と理解を求めた。

このほか、3者協議の拡大、弾力的な実施や支障物件の撤去、移設についても議論を重ねた。

意見交換会は年度内に鹿追、足寄の両出張所でも開催が予定されている。